A 43

介護者の老人観・介護観と老人の発達要求

静岡大　教育　　金田利子
静岡大　教育　　○山口賢児

目的　本研究は、昨年の報告「高齢者の自己変革要求－生活条件の違いとのかかわりから－」の継続である。昨年の研究では、生活条件（特別養護老人ホームと在宅・デイサービス）によって、高齢者の自己変革要求（＝発達要求）の量と質が異なること、すなわち、在宅・デイサービス利用者の方が、カナーの考案した「三つの願い」法での調査によると、要求内容が量質ともに多様であることを明らかにした。そこで、今年の研究では、その生活条件の重要な側面として、介護者の老人観と介護観を位置づけ、被介護者の発達要求との関連をとらえることを目的とした。

方法　昨年、被介護老人の調査を行なったＡ園Ｙ園の特養ホームおよびデイサービスの介護者を対象に、被介護者に対する老人観と介護観について、「三つの願い」法を応用した方法で調査し、被介護者自身の発達要求と対応させ、両者の関連について考察した。

結果　１）介護者の老人に対する要求で最も多かったのは、「自立」と「生きがい」であった。２）そのなかでも、ここでのケースにおいては、特養ホームの介護者よりも、デイサービスの介護者の方が老人を生活と発達の主体として位置づけている傾向がみられた。３）介護要求で最も多かったのは、老人と接する時間の持てるための条件の改善であった。このことから、老人の発達要求と介護者の老人観・介護観との関係を見ると直接的には介護者の意識に規定されるが、間接的には介護者もまた、社会的生活条件に規定されているということがわかった。